

広報たかつき

知る 広がる 好きになる

TAKATSUKI

Days

令和8年

4

No.1457

大切なものだから



Pick Up

- 10 令和8年度施政方針
- 16 市の組織機構を変更
- 17 2歳児クラスの保育料無償化
ごみ出しが困難な世帯を支援

かたちを変えて、
使い続ける

randsel



手を加えれば、
自分だけの一点ものに

サイズの合わなくなった服や、不要になった学用品。もう使えなくても、思い出があって捨てたくないものは、誰の家にもあるのでは。そんなものたちも、少し手を加えることで、また別のかたちになって、暮らしのなかに戻ってくる。バッグに仕立て直したり、小物に作り変えたり。新たな用途をもって生まれ変われば、まだまだ使い続けることができる。しかもそれは、自分が使い続けたものを素材にした、世界にひとつだけのもの。「もったいない」という気持ちに寄り添いながら、思い出を次のかたちへつないでいける。



役目を終えたランドセル

小学校を卒業し、使わなくなったランドセル。大切な思い出として保管しておくのもいいけれど、別のかたちに変えて残す方法も。実用品にリメイクすれば、これからも愛用し続けられる新しいパートナーに。



ランドセルのフタや側面の生地を切り取り、5種の型紙に合わせてカット。それぞれのパーツを縫い合わせていく。型紙に収まるサイズなら、ランドセルに施された刺繍を生かすことも

Interview

手元に置いておくのなら、長く愛用できる新しいかたちに
河合 哲さん ジャンプソール(富田町)

現在のランドセルの主流になっている人工皮革は、劣化しにくく長持ちしやすいので、本革同様、生地が活かせる小物にリメイクできます。「捨てたくない」と保管していた方がリメイクできることを知って、依頼していただきます。兄弟姉妹のランドセルを順番にお持ちいただいた方もおられました。お子さんも楽しみにしていた、喜んで使っているなどと聞くと、とてもうれしいです。



ジャンプソール…靴・かばんの修理や合鍵の製作をメインに革小物のリメイクなどを手掛ける。息子のランドセルからキーケースを作製したところ喜んでもらったため、ランドセルリメイクも開始

修理して、
さらなる愛着を

furniture



捨てなくても、
何度でも直せばいい

傷んでしまった家具や動かなくなった道具など、「もう使えないかな」と思ったものも、すぐに手放してしまうのはちょっと待って。思い出があるものほど考えてみたいのが、修理をするという選択肢。部品を替えたり、手直ししたり。買い替えるのではなく修理して使い続ければ、ごみを減らすことにつながるのももちろん、愛着ももっと、深まっていく。
直しながら使うという暮らしは、特別なものではなく、昔は普通だったこと。日常のなかに再び戻ってくれば、思い出もお気に入りもより長く、高槻の暮らしを彩ってくれるはず。



傷んだ天板を修理する際、依頼者好みの風合いにリメイクしたデスクは今も現役(左)。家族それぞれのカラーに塗り替えたチェア(右)



家族の思い出が詰まった家具

長年使ってきた家具には家族の時間が刻まれている。くたびれたり、どこか壊れたりしても、修理すればこの先も暮らしの一部に。使い続けることができるようになれば、思い出ごと、次の年月へとつないでくれる。



ひじ掛けのカケ

ひじ掛けが欠けたロッキングチェアは別の木片を埋め込んで修理。座面の割れも直し、快適に使っている

ダイニングセットの中の一脚に、ガタつきや座面の割れなどが。直して塗装し直し、元通りに



座面の割れ



天板の塗装がはがれ傷んでいたローテーブルは依頼者が実家で使っていたもの。美しく直して喜ばれたそう

Interview

思い出を残すことも、自分好みに変えることも可能

山田 龍介さん マウンテンプラス(原)

サイズ感や座り心地が良かった椅子、婚礼で贈られたダンス、大切な人と一緒に選んだテーブルなど、日々の暮らしに寄り添ってきた家具は他には代えがたく、新品以上の価値があるはず。修理すれば、お子さんがつけたキズや落書きを残しながら直すことも、今の家族構成や内装に合ったより良い家具にすることもできます。好きな色に塗り替えればオリジナルの家具にもなりますよ。



マウンテンプラス…叔父が営む家具修理工房での修業を経て、家具の修理・補修・再生やリメイクなどを行う工房を設立。「町の家具修理屋さん」として人それぞれ違うさまざまな要望に応える



toy

壊れてしまったお気に入りのおもちゃ

動かなくなったのならまた同じものを買えばいい、わけじゃない。それはすでに、自分だけの大切な存在になっているから。おもちゃの“ドクター”が“治療”をしてくれる「病院」は、頼れる味方になってくれる。



写真左上から
(ピアノのおもちゃ)音が鳴らなくなった赤ちゃん用のピアノも治療により“回復”
(ゼンマイ仕掛けのぬいぐるみ)ゼンマイ式のうさぎは無事シンバルをたたけるように
(オルゴール)ゼンマイを直して回りながら音楽を奏でようになったオルゴール



来院が多いのが、動くぬいぐるみの足などの“骨折”、動かなくなった鉄道のおもちゃやベッドメリー。つなぎ合わせたり、電池の接触部分を掃除したり、部品を交換したり、症状に応じて治療。紐が切れてバラバラになった木のおもちゃも元の状態に



市営バスのミニカーは“問診”で電池の入れ違いが動かない原因とわかり、解決

Interview

治った感動はひとしお、まずは修理を検討してほしい

辻 隆さん、小田 正継さん(院長)、堀内 宏志さん
たかつきおもちゃ病院

電気関係の仕事をしていた人や機械いじりが趣味の人など、修理作業を楽しめるドクターが集まってがんばっています。治せたという喜びはもちろんありますが、また動くようになったおもちゃを見たときのお子さんの笑顔は励みになります。「今まで遊んでいたものがいい」という気持ちもうれしいです。近頃は「孫に」と、古いおもちゃを持ってこられる方もおられ、さまざまなやりがいを感じます。



たかつきおもちゃ病院…おもちゃの修理と故障の診断を原則無料で行うボランティア団体。「まずは相談を」と、経験豊かな14人のドクターが知恵と技術を出し合いながらボランティア・市民活動センターなどで活動



動かなくなったラジコンカーの故障の原因を探す。“入院治療”(預かって修理)し、次の開院日に“退院”予定

必要な人に、使ってもらおう



book



好きだったものだから、必要としてくれる誰かへ

店内には約1,500冊。季節などその時々でテーマを設け「出会い」を演出し、本を通じた“つながり”を大切にしている



傷んでいて販売しにくい本も無料のコーナーを作って次の主を探す(上)かごを使って古本をディスプレイし目につきやすいように(左)

恒例イベント「こいのぼりフェスタ」

毎年4/29開催の「こいのぼりフェスタ1000」で芥川桜堤公園の大空を泳ぐ約1,000匹のこいのぼりは、実はほぼ市民から寄付されたもの。高槻の風物詩は家族の思い出の延長にある。
※こいのぼりフェスタの詳細は30ページ



こいのぼりを服にリメイク!

数年前から、SNSで募って譲り受けたこいのぼりを服にして来場する人も。「季節や節句を感じてほしい」と、GW中のイベントにも着用して参加

Interview

大切だった存在を、次の誰かにつなぐ

奥野義実さん、由起子さん(店主)
OKNO BOOKS(大蔵司)

古本を扱おうと思ったのは、誰かにとって役目を終えた本がまた新しい誰かのための本になってほしいからです。本をお持ちいただいた方々は、その本への思いやエピソードを話してくださいませ。帰られるとき、表紙を何度も撫でて別れを惜しむ方もいらっしゃるほどです。次の主のもとへしっかりと送り出したいと思っています。



OKNO BOOKS …人から人へ本をつなぐ場をつくりたい、紙の本から何かのきっかけとなる言葉に出合ってほしいという思いで開店。古本に加え、ヨーロッパの雑貨も販売